

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 会津若松市立一箕小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ <u>III</u> ・ IV ・ <u>V</u>
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	会津若松市立一箕小学校 小学4年生：122名 小学5年生：122名 小学6年生：111名 合計 355名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(体育科) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目 標 (ねらい)	○パラリンピアン鈴木猛史選手(チェアスキー・金メダリスト)の講話を拝聴し、今後の自分の生活において、強い意志などの価値を大切にしていこうとする態度を養う。 ○オリンピック・パラリンピック、障がい者スポーツへの興味・関心を高めるとともに、スポーツを通じた共生社会構築の素地やスポーツを楽しむ心を育成する。
5 取組内容	<事前> ○オリンピック・パラリンピック教育推進事業の趣旨理解 (職員会議での伝達) ○校内推進委員会の設置 ・推進委員会(校長・教頭・主幹教諭・教務・体育主任) ・事業計画の立案 ・推進テーマの正式決定 ○講師の選定と交渉及び日時の決定 ○講師との調整 <授業当日> ☆「強い意志で 雪国会津から 二度目の金メダルを目指す！」 講 師： 鈴 木 猛 史 (パラアスリート・チェアスキー) 対 象： 4年・5年・6年 (1) 講話 チェアスキーを始めるきっかけ(交通事故の話など)や 小学校時代の生活、様々なチェアスキー(障がいスポーツ) の紹介、競技人生についてなどの講話をいただいた。

(2) 実技披露

鈴木選手のトレーニングや各種運動（反復横跳びなど）の仕方などを披露していただいた。

(3) まとめ

鈴木選手と児童が、質問や感想のやりとりをして、さらに交流を図った。最後には、金メダルと銅メダルを手にとらせていただいた。

<事後>

○事後指導（振り返り）→放課後の時間（ひとみタイム）活用

○応援の意味も込めて、児童の感想を鈴木選手に送付

<関連資料>



鈴木猛史選手の体験に基づいた講話



鈴木猛史選手のトレーニングの披露

6 主な成果

○小学生のときに交通事故に遭ったパラアスリートの講演から、どんな境遇になっても最初からあきらめずに、まずは何事にもチャレンジすることの大切さを実感しながら学ぶことができた。

	<p>○子どもたちが同郷（会津）出身の金メダリストの存在を知り、直接お会いしたことで、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まった。様々な活動への意欲喚起にもつながった。</p> <p>○児童一人一人が感想をまとめ、友だちと交流したり、鈴木選手に送付したりしたことで、スポーツやインクルーシブ等への意識をさらに高めることができた。</p>
7実践において工夫した点（事業の特色）	<p>○講師が、同郷（会津）のパラアスリートであったことから、子どもたちが講師に対して親近感を抱き、教育効果が増した。</p> <p>○講師が、チェアスキーのパラアスリートであったことから、この後の体育科のスキー学習にもつなげることができた。</p>
8主な課題等	<p>○講師との日程調整や打合せ等を、もう少し早い段階から進めることができれば良かった。</p> <p>※講師がアスリートであることから、大会や練習等の計画がすでに入っているため、できるだけ早く講師を決定し、日程調整を進めていくことが必要である。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○昨年度は三段跳びのオリンピック山下航平選手を招き、今年度はチェアスキーのパラリンピアン鈴木猛史選手を招いてオリ・パラ教育を展開した。次年度は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されるので、今回の事業を児童のオリ・パラへの興味関心につなげるとともに、体育科を中心に運動好きな児童が増えるように教育活動を行っていきたい。</p>